

日本銀行旧広島支店

中村茂樹 日本銀行文書局技師

明治期以降近代都市として発展し、原爆で被災した広島市には、いくつかの被爆建物とその歴史の証しとして今も生きています。日本銀行旧広島支店もそのひとつです。第三回は、そんな旧広島支店の建物をご紹介します。

広島出張所の開設

明治四年（一八七二）の廃藩置県を行なった明治政府は、広島藩四二万石の旧広島城内に新政府の治安維持等を担う鎮西鎮台（熊本）（注1）の第一分営を置きしました。

明治期以後、軍都としての形成が始まります。明治六年（一八七三）には、全国六鎮台の一つとなる広島鎮台が置かれ、さらに明治二十二年（一八八八）には第五師団に改組され、また多くの軍事機関、施設が次々と設置されて、軍都として役割を強めていきます。

明治二十七年（一八九四）、日清戦争

が始まると、大本営（注2）が旧広島城内に設置され、また臨時帝国議会（注3）も開催されるなど、約七カ月の間、広島市は臨時首都の観を呈しました。

また広島湾に開かれた宇品港（現在の広島港）（注4）は、兵站基地として全国（注5）の兵士を集結し大陸に送り出す拠点となりました。

さらに、明治三十七年（一九〇四）二月、日露戦争が始まると、先の明治三十四年（一九〇一）に山陽線の神戸駅から馬関駅（現在の下関駅）の全線が開通したこともあり、本州各地から動員された将兵の多くが広島に集結し、宇品港から出兵することとなり、国庫



上・現在の外観
下・新築時の外観
(広島支店所蔵)



金の出納事務が激増しました。

この状況を受けて、資金集散の便宜を増進させることが急務となり、日本銀行広島出張所を急遽開設することになります。

出張所の開設にあたり水主町（現在の中区加古町）の一角、広島県庁の向かい側に用地を取得し、明治三十七年（一九〇四）十二月から急ぎ新築計画に取り掛かりました。

水主町は、藩政期には広島藩の藩船等の乗組員（水主）が多く居住し、藩の船屋敷が設けられていた町でした。明治期以降は旧広島城周辺の基町が軍事施設の中心地に変貌していくなかで、

（注1）鎮台
明治四年（一八七二）に編成された日本陸軍の常設軍制単位。日本近代陸軍組織の始まりで、明治二十一年（一八八八）に師団に改組。

（注2）大本営
明治二十七年（一八九四）に始まった日清戦争の戦争指揮のために旧広島城内に設置された大日本帝国軍の最高統帥機関。

（注3）臨時帝国議会
明治二十七年（一八九四）十月、日清戦争に関連する軍事予算案や関連法案が広島で審議され、満場一致で可決された。二〇日間ほどの突貫工事で建設した洋風木造の臨時仮議事堂で開催された。

（注4）宇品港
広島県令（知事）千田貞暁の発案で明治二十二年（一八八九）に築港された広島の外港。昭和七年（一九三二）に広島港に改称。日清戦争以降、陸軍の軍用輸送基地の役割を果たした。





写真1 長野宇平治
明治26年(1893) 帝国大学工科大学(現在の東京大学工学部) 造家(建築)学科を卒業。日本銀行技師長。わが国屈指の古典主義建築家として知られ、日本銀行本支店を始めとする数多くの銀行建築を手掛けた。(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)

初代営業所建物

水主町及びその周辺は広島県庁等の公共機関が置かれるなど広島における行政の中心地としての性格を有していました。(図1)

明治三十八年(一九〇五)二月に工事を着工し、わずか五カ月後の同七月

に本館及び金庫をほぼ完成させ、同九月に営業を開始しました。付属家を含めた建物全体が竣工するのは、営業開始から一年以上先の翌

図1 歴代広島支店の所在地



三十九年(一九〇六)十二月でした。先に開業した支店・出張所のほとんどが購入した既存建物を初代営業所建物としていたことから見ると、当初から店舗を建築したことは、広島営業拠点の重要性というより、膨大な国庫金の出納事務に見合う金庫を新たに設けることが急務であったからと思われる。

広島出張所建物の設計は、大阪支店に続き名古屋支店と京都出張所の新築工事に携わっていた辰野金吾と長野宇平治(写真1)の二人に委ねられました。名古屋と京都の新築工事中(明治三十九年「一九〇三」竣工、明治三十九年「一九〇六」竣工)に並行して設計した広島出張所建物を先に竣工させたことが、同出張所の開設がいかに急務であ



図2 新築時の広島出張所の平面図

ったかを物語っています。工期を短縮するために本館の構造はレンガ造りの代わりに木造が採用されました。

初代の営業所建物となる広島出張所は、木造二階建ての本館と、レンガ造り平屋の金庫館および機械室・食堂等の付属家で構成されています。(図2)

本館は木造モルタル仕上げの外壁に丸柱の列柱を配し、スレート葺の屋根にドーム屋根とドーマ屋根(注5)を配した石造り風の洋風建築でした。(写真2・3)

軍都・広島に開設された広島出張所は、業務の重要拠点として明治四十四年(一九一一)六月に支店に昇格し、業務もますます増大していきました。

昭和期に入り、木造で急造した初代営業所建物は設備の不便さと雨漏りに苦慮するなど老朽化が顕著となりました。

また大正元年(一九一二)に敷設された市内路面電車(注6)は、沿道にデパートや映画館が建ち並ぶなど街の発展に大きな影響を与え、同路線外の水主町は各行政機関や取引銀行からの隔たりに不便さを否めなくなりました。

移転改築の計画が開始され、昭和二年(一九二七)に市の中心地である中区袋町の市電沿道の一角に用地を取得しました。



写真2 広島出張所(初代)
(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)



写真3 広島出張所の営業場風景(日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)

(注5) ドーマ屋根
屋根裏(室内)を採光するために屋根面から突出して取り付けられた屋根窓。

(注6) 市内路面電車
広島電鉄により広島市内に広がる路面電車網。大正元年(一九一二)の運行開始から原爆による被害や路面電車排斥の流れを乗り越え、現在日本最大の路面電車網を擁す。

図3 旧広島支店の平面図

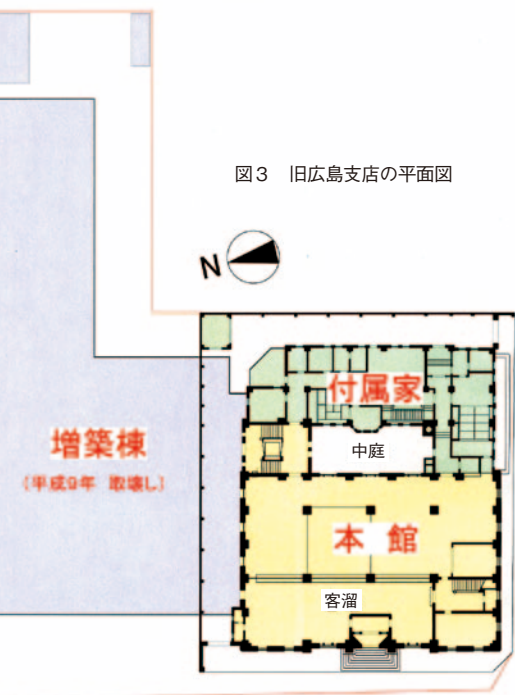


写真5 旧広島支店の営業場風景 (広島支店所蔵)



写真4 旧広島支店 (二代目) (広島支店所蔵)



二代目営業所建物

移転改築の設計は初代営業所建物に引き続き長野宇平治に委ねられました。明治期の一連の日本銀行各支店の設計を終え、日本銀行技師を辞して自営の設計事務所を開業していた長野は、昭和二年(一九二七)に再び本店増築工事(注7)の機に組織された日本銀行臨時建築部の技師長に就いていました。師とする辰野金吾の設計した本店本館の増築工事に携わる長野に、同じ辰野と共作した広島支店を自ら移転改築する使命が与えられたこととなります。本店増築を同本館との外観の一体感を図ることを使命とした長野は、広島支店では辰野から学んだ古典建築様式に建築最新技術を集大成することで師に応えました。

用地取得から六年後の昭和八年(一九三三)に新築設計案が決定し、翌九年(一九三四)十一月から工事に着手し、二年後の十一年(一九三六)八月に完成しました。(写真4・5)

二代目の広島支店建物は、鉄骨鉄筋コンクリート造り地上三階地下一階の本館と鉄筋コンクリート造り地上二階地下一階の付属家で構成されています。

(図3)

従来の支店建物が敷地内に金庫を別棟として配置していたのに対し、本館建物の地階に金庫を取り込んでいます。地下金庫は本店(本館および増築棟)を除き、昭和期の新築建物から採用された方式で、現存する支店建物では最も古い地下金庫です。

本館の構造は、支店建物として初めて鉄骨鉄筋コンクリート造りを採用しています。(写真6) 堅牢な構造が後の原爆被災での倒壊をまぬがれた大きな要因になります。

営業場の採光のため、同天井にガラス屋根が施され(写真7)、また地下金庫の作業性を考慮して地下の荷捌場にも上部中庭の床に設けたガラス窓から自然光を取り入れていました。(写真8)

被爆建物としての保存・活用

昭和二十年(一九四五)八月六日、原子爆弾の被爆により広島市の中心部

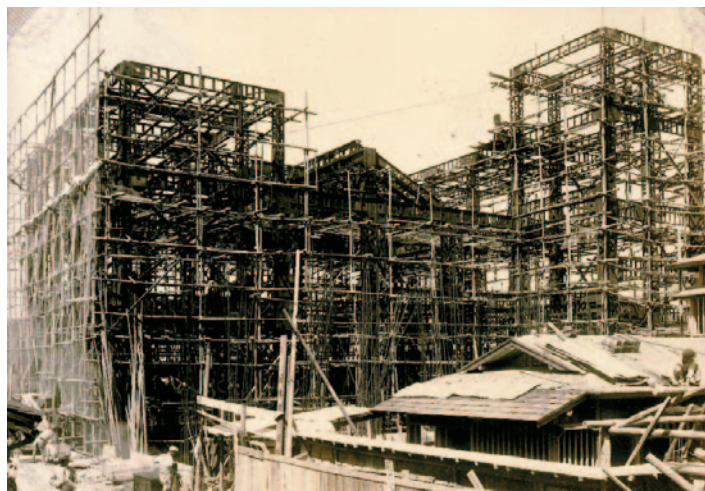


写真6 旧広島支店の新築工事(鉄骨工事完了時)(広島支店所蔵)

写真7 旧広島支店営業場上部のガラス屋根(広島支店所蔵)



写真10 現在の広島支店



写真9 被爆した旧広島支店 (日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵)



のほとんどの施設が一瞬にして壊滅しました。爆心地からわずか三八〇メートルという近距離にあった営業所建物の被害も甚大で、爆風のため営業所の扉、窓サッシ、窓シャッターのすべてが吹飛び、ガラス屋根が鉛のように大破し、地下金庫前の格子扉まで破壊され、三階の内部がすべて焼失したものの、構造には異常なく倒壊は免れました。(写真9)

焼失を免れたほとんど唯一の金融機関として、被災直後の八月八日から建物内に市中金融機関の臨時共同店舗を開設し、一斉に業務を開始できたことで、金融面から広島復興に大きな役割をはたしました。

店舗の復旧工事は、電気・水道・電話の復旧とガラス屋根の応急修理から始まり、被災職員収容のために炊事場の設置等が逐次実施され、翌二十一年(一九四六)五月までに窓サッシ等の内装も復旧しました。ただし、暖房設備やガス設備の復旧工事は昭和二十五年(一九五〇)六月まで続きました。

一方、新築当時から懸念された敷地内の空地不足を解消するため、昭和二十三年(一九四八)から二十五年(一九五〇)にかけて書庫・倉庫等の増設スペースとして北側隣接地を順次購

入して敷地の拡幅を図り、さらに業務の拡大に対応するため昭和四十五年(一九七〇)三月、鉄筋コンクリート平屋建ての金庫および同二階建ての付属家を増築しました。

その後、さらなる業務拡大と建物設備の老朽化に対応するため、平成四年(一九九二)三月、中区基町に新築した三代目となる現在の営業所建物に移転しました。(写真10)

二代目の営業所は銀行としての役割を終えましたが、平成六年(一九九四)六月に「旧日本銀行広島支店」として被爆建物台帳(注8)に登録され、さらに同十二年(二〇〇〇)七月に「広島市指定重要文化財」に指定されました。

歴史的遺産の側面を有した旧広島支店建物は、広島市からの保存活用への強い要望に応じる形で、同市に無償貸与することで、建物全体を市民主体の芸術・文化活動の発表の場として公開し活用保存されることになりました。

現在、広島市により一部復元も含めた保存・活用のための改修工事が計画されています。

旧広島支店建物がこれからも建築物の文化的価値を維持しつつ、被爆建物という歴史の証人として保存・活用されることを期待します。

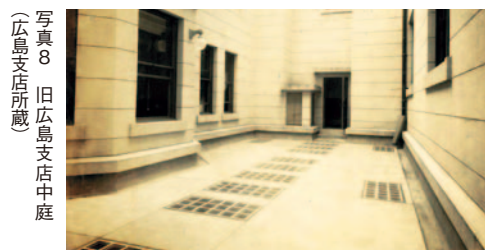


写真8 旧広島支店中庭 (広島支店所蔵)

(注7) 本店増築工事
本店本館の震災修復工事に引き続き一ノ三号館の増築工事。長野宇平治設計。昭和四年(一九一九)着手、昭和十三年(一九三八)三号館竣工。日本銀行建物として初めて鉄骨鉄筋コンクリート造りを採用。二ノ三号館が現存。

(注8) 被爆建物台帳
広島市が定めた「広島市被爆建物等保存・継承実施要綱」に基づく、爆心地から五キロメートル以内に現存する建物の保存・継承を目的とする登録制度。原爆ドームをはじめ八八件が登録(平成二十四年「二〇二二」現在)。